

連載 千座の置き戸（ちくらのおきど）

## 第二百六十八回 文化共産主義 その三

南出喜久治（令和7年5月15日記す）

ところで、この文化共産主義の思想において、最もよく使はれる用語は、多様性（diversity）とリベラルである。

多様性といふのは、その本質は種の多様性のことである。異なる種のすべてを同等に取り扱ふといふことである。人間もその他の動物も同じ生命の価値があるとして、イヌ、ネコを人間と同等、あるいはそれよりも保護する考へになる。富裕層の道楽が嵩じて作られたイヌネコ党もこの多様性といふ呪文によつて踊らされてゐるのである。

同種において、個体に相違があることは、多様性とは言はず「個性」といふ。

つまり、多様性は異種も同種も同じ価値があるとして差異を無視するのに対し、個性は同種における差異を尊重することである。

LGBTQにおいて多様性を主張することは、LGBTQを正常な人間とは違ふ異種と看做してゐることである。

この多様性は、グローバリズム、ポリティカル・コレクトネス、ヘイトスピーチなどにも共通したものである。

ポリティカル・コレクトネスやヘイトスピーチによる言葉狩りは、文化破壊とともに思想偏向へと誘導し、それをグローバリズムによつて世界各地の文化を均一化する方法で文化破壊を徹底させるのである。

これらのスローガン用語を駆使して、少数者でありながら多数者の地位を奪つて統治し、家庭を破壊し、社会を破壊し、国家を破壊することが新しい共産主義である文化共産主義の戦略なのである。

次に、リベラルについてである。リベラルといふのは、自由主義を振りかざし、少数者の権利を保護すると称して、多数者の地位と少数者の地位を逆転させ、少数者を多数者の地位に就かせて、多数者を弾圧したり抑圧したりすることができるとする反民主主義的、反自由主義的な危険思想のことである。

少数者を抑圧することは違憲・違法であり、不利益を受けてゐる少数者に特別の権利と保護を付与しなければならないとして多数者に少数者の特別待遇を容認させる法案を成立させる行動をとる。

LGBT の問題や選択的夫婦別姓の問題における主張の構造は、このやうなものである。

民主主義の運用において、多数決原理によつて少数者の自由や権利を奪ふことの悪弊を少しでもなくすために、十分な審議、討議をしてお互ひの理解が得られるやうにして、決議後は対立をしないやうに配慮するのが民主主義が掲げた理想ではあつたが、そんなことをしても結論は変はらないとして、そんな手間のかかることはせずに、数の力を最大限に行使して簡単に決議することが正義であるとするのがリベラルの本質的な考へ方である。

そもそも、複数の者によつて構成される団体の意志の決定といふのは、全会一致が原則である。我が国でも閣議の決議方法がこれである。しかし、構成員が少数数ではなく多数になると全会一致は事実上困難になる。そこで、多数決原理によつて多数の者の考へを団体の意志とすることになった。多数といふ量の多さは、決議した内容の正しさ（質）を推認させるといふ論理によるものである。量の多さが質の正しさを推認するとの考へである。

しかし、これは、情報の真偽や偏りがあるために、現代ではこの推論は成り立ちにくい。むしろ、真実は、常に少数の者が語り始めるといふが歴史的経験として認められるので、多数決原理には普遍性が見出せなくなつてきたのである。

リベラル勢力が少数のときは、自由主義を守れと言つて多数決原理による民主主義の横暴を批判し、十分な審議をせずに立法化することは違憲であるなどと主張する。安保法制の審議におけるリベラル政党（立民、共産など）が主張がこの論理である。

ところが、自己が比較多数派となれば、今度は十分な審議もせずに多数決で立法化するといふ民主主義の横暴を発揮するダブルスタンダードの思想がリベラルなのである。リベラルといふのは、勝手気儘といふ意味である。

ところで、現在のアメリカの分断は、リベラル思想が原因であり、民主党も共和党も同じ考へであることから、双方がリベラルなのである。よりその傾向が強いのが民主党であるといふ程度問題なのである。

そもそも民主主義とは、多数派による少数派の弾圧原理であり、それほど褒められた制度ではない。そして、自由主義とは、本来、多数派の横暴を阻止して、多数決原理では奪はれない少数派の地位と権利を守る考へであつたはずが、いまやすべての事項を多数決原理によつて決することとなつて全くこの自由主義が機能しない方向へと進んでゐる。すべての事項を多数決原理に服させて、自由主義を死滅させるのである。

一切の事項を例外なく多数決原理に服することになれば、たとへば、100 人のうち、90 人が特定の 1 人の者の命を奪ふことを決議すれば、その者の命を当然に奪ふことができる

ことを正当化することになるのである。

結局、教育におけるリベラル思想は、たとへば、多くの者が向上心を持つて努力してゐるのに、その中に一部の怠け者が居たら、その少数の怠け者に多くの者と同じ権利を認め、否、それ以上に怠け者の考へを最優先して多くの者の考へを否定して怠け者を優遇するために、全員が怠惰に流れて教育が崩壊するのである。全員を怠け者にさせることを強制するのがリベラルなのである。